令和８年度

病害虫発生予察情報　　第 16 号

９月月報

北海道病害虫防除所　令和8年（2026 年）10 月16日
http://www.agri.hro.or.jp/boujosho/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

Ⅰ．気象概況　　札幌管区気象台発表　北海道地方気象速報

－低気圧の影響を受けにくく、かなりの少雨と多照－

９月は、低気圧や前線の影響を受けにくく、高気圧に覆われやすかった。このため、北海道地方の降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。特にオホーツク海側の月降水量の平年比は、1946 年の統計開始以降、小さい方から第２位の記録となった。また、中旬以降に暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。

上旬：低気圧や前線の影響を受けやすかったため、日本海側とオホーツク海側の日照時間は少なかった。冷たい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は低かった。

中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北海道地方の降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。特に旬降水量の平年比は 1946 年の統計開始以降、オホーツク海側では小さい方から第２位、北海道地方と日本海側では第３位の記録となった。 また、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。

下旬：低気圧や前線の影響を受けにくかったため、北海道地方の降水量は少なかった。また、日照時間は太平洋側で多かった。暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。

気候表（気温は平年差（℃）、降水量・日照時間は比（%）を示す）

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+0.5	高	52	か少	114	多
日本海側10 地点平均	+0.4	並	51	少	113	多
オホーツク海側4 地点平均	+0.4	並	35	か少	115	多
太平洋側8 地点平均	+0.6	高	64	少	116	多

注)　階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020 の 30 年間)における各階級の出現率が 1：1：1 となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」（か→かなり）で表します。

Ⅱ．病害虫発生概況

注）本資料における表中の０の表記について
０のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0 あるいは 0.00 などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

Ａ．水稲

１．いもち病（穂いもち・節いもち）　　発生量　　並

予察田における穂いもちの発生量は、比布町では平年よりやや多く、岩見沢市では平年よりやや少なかった。節いもちの発生量は、岩見沢市で平年より少なく、比布町で平年並であった。

予察田における水稲の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	33.2	42.8	－	－	10
比布町	ななつぼし	68.9	59.2	－	68.7	10
北斗市	きらら397	－	65.0	－	99.6	10
	ななつぼし	－	－	－	－	－

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)－:倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稲の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	6.4	23.6	－	－	10
比布町	ななつぼし	28.6	24.7	－	15.5	10
北斗市	きらら397	－	22.3	－	41.6	10
	ななつぼし	－	－	－	－	－

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)－:倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

２．紋枯病　　発生量　　多

予察田における発生量は、岩見沢市で平年より多かった。

予察田における水稲の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	46.5	23.2	－	22.5	10
北斗市	ななつぼし	－	29.6	－	20.7	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)－:倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

３．ニカメイガ　　発生量　　少

長沼町の予察田における被害茎率は、平年より低かった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町		平年数
本年	平年	
0.4	5.2	10

４．斑点米カメムシ類　　発生量　　並　　＜８月３日付け注意報第３号＞

予察灯による成虫誘殺数は、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は、長沼町で平年並、北斗市では平年より少なかった。アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）は、北斗市で平年より少なかった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、アカヒゲは、長沼町及び北斗市で平年並、比布町で平年より少なかった。アカスジは、北斗市で平年よりやや多かった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り虫数（20回振り×5日分換算値）					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	61	37.9	16	52.6	0	3.8	0	2.8	0	1.8
2半旬	35	55.2	9	46.4	0	2.3	5.0	2.2	7.5	3.1
3半旬	21	21.3	12	8.7	7.5	0.4	0	2.8	2.5	3.1
4半旬	43	15.5	6	5.2	−	1.3	0	4.0	−	1.4
5半旬	2	1.4	0	0.1	−	0	0	1.3	−	0.8
6半旬	0	4.4	0	0.3	−	0.3	0	0	−	−
平年数	10		10		10		10		10	

注）ー：すくい取りは収穫期を迎えたため調査終了

アカスジカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数		水田すくい取り数	
	北斗市		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	12	61.7	2.5	1.8
2半旬	12	119.8	5.0	1.3
3半旬	20	42.2	0	0.8
4半旬	8	16.3	−	0
5半旬	0	0.3	−	−
6半旬	0	0.2	−	−
平年数	7		8	

注）ー：すくい取りは収穫期を迎えたため調査終了

B. てんさい

１．褐斑病　　発生量　　やや多

予察ほにおける発生量は、長沼町で平年並、訓子府町で平年よりやや多く、芽室町で平年より多かった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名（褐斑病抵抗性）	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン（やや強）	61.2	67.5	75.2	78.3	93.6	85.5	10
	カーベ2K314(強)	70.0	－	84.0	－	99.2	－	－
芽室町	ライエン（やや強）	85.2	62.6	94.0	68.5	99.6	79.4	10
	あまいぶき(弱)	94.8	75.0	98.0	82.7	100	89.3	10
	スタウト（強）	72.0	61.3	88.8	68.4	98.8	78.5	10
訓子府町	ライエン（やや強）	59.2	58.3	78.0	67.1	85.6	77.2	10
	カーベ2K314(強)	61.2	－	80.8	－	91.2	－	－

注）－：平年値なし

２．ヨトウガ（第２回）　発生量　並

予察ほにおけるヨトウガ第２回幼虫による食害程度は、すべての地点において平年並であった。

一般ほにおける９月３半旬の巡回調査によると、全 75 地点のうち、被害株率 50%以上となった地点は認められなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	71	70.5	42.5	45.2	37	38.8
2半旬	77	77.6	43	48.7	37	43.5
3半旬	78	81.1	47.5	51.0	37	48.9
4半旬	80	83.2	55.5	54.2	42	53.6
5半旬	83	85.4	58.5	56.7	49	57.9
6半旬	86	87.0	61.5	58.3	57	61.0
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率（%）

普及センター		地点数	9月3半旬	
			本年	前年
空知	南東部	1	6.0	15.0
石狩	本所	3	0.7	92.0
後志	本所	3	7.3	38.0
胆振	本所	4	8.5	21.0
	東胆振	3	0	94.7
上川	富良野	2	0	21.0
	大雪	2	0	8.0
	士別	1	10.0	100.0
	名寄	1	1.0	100.0

普及センター		地点数	9月3半旬	
			本年	前年
網走	本所	9	3.7	48.7
	清里	6	5.3	61.0
	網走	2	1.0	65.0
	美幌	5	4.8	19.8
	遠軽	3	11.5	37.3
十勝	本所	7	4.8	32.8
	東部	5	2.0	12.5
	東北部	4	4.0	18.0
	北部	3	6.0	38.7
	西部	3	9.7	34.7
	南部	8	1.7	39.7

C. あぶらな科野菜

１．モンシロチョウ　　発生量　　並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	4	4.1	0	18.3
2半旬	2	3.6	0	15.6
3半旬	3	6.3	6	18.0
4半旬	34	11.8	10	16.6
5半旬	32	16.2	25	17.6
6半旬	51	19.5	21	15.5
平年数	10		10	

注） 10株あたりの寄生虫数。

２．コナガ　　発生量　　少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より少なかった。芽室町及び訓子府町では誘殺が認められなかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	4.5	16.5	0	1.5	0	4.8	0	1.3	0	1.4
2半旬	0.5	21.4	0	1.1	1	5.4	0	0.2	0	0.3
3半旬	0	13.5	0	1.5	0	6.2	0	0.4	0	0.5
4半旬	0	8.7	0	2.3	2	5.3	0	0.2	0	0.2
5半旬	2	11.5	1	2.5	1	4.5	0	0.4	0	0.2
6半旬	0	8.2	2	3.5	1	4.2	0	0.3	0	0
平年数	10		10		10		10		10	

注） 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	3	6.9	0	9.5
2半旬	11	7.1	0	3.3
3半旬	1	10.5	1	2.1
4半旬	3	8.2	0	8.0
5半旬	4	14.8	0	5.1
6半旬	3	13.7	0	4.6
平年数	10		10	

注） 10株あたりの寄生虫数。

D. りんご

１．黒星病　　発生量　　やや少

予察園における発生量は、長沼町（無防除）では平年よりやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園では発生が認められなかった。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況（9月6半旬）

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	76.3	89.5	41.9	58.9	9
余市町(慣行防除)	昂林	0	－	－	－	6

注1)－:調査対象外または平年値なし

注2)余市町データは9月5週目調査

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果（9月3半旬）

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

２．斑点落葉病　　発生量　　並

予察園における発生量は、長沼町（無防除）では平年並だった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島および留萌地方で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況（9月6半旬）

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	4.3	6.1	0.1	0.1	10
	王林(徒長枝)	5.7	4.6	0.1	0.1	10
余市町(慣行防除)	昂林(徒長枝)	0	－	－	－	6

注1)長沼町は9月6半旬、余市町は9月5週目のデータ

注2)－:調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果（9月3半旬）

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	30.7
渡島	本所	1	49.9	44.2
留萌	南留萌	1	5.0	1.0

３．モモシンクイガ　　発生量　やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Ａ（慣行防除）では平年並、余市町Ｂ（慣行防除）では平年よりやや多かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市及び壮瞥町で平年並、七飯町及び旭川市では平年より少なかった。増毛町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	21.5	38.6	10.3	5.4	25.2	19.2
2半旬	4.5	22.7	5	4.2	17.1	12.6
3半旬	3	4.4	0	2.3	16.3	5.4
4半旬	0	0.3	0	1.1	6.3	2.8
5半旬	0	0	0	1.0	3.8	0.1
6半旬	0	0	0	0.7	0	0.1
平年数	10		10		10	

注） 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	8.3	9.8	6.8	9.5	5.0	13.8	2.8	11.1	0	0.3
2半旬	7.0	4.4	4.8	6.3	4.0	6.3	1.6	4.8	0	0.2
3半旬	7.9	0.2	0.8	1.8	0	2.1	0	0.7	0	0
4半旬	0	0.0	0	0.6	0	0.9	0	0.3	0	0
5半旬	0	0	0	0.6	0	0.4	0	0.1	0	0
6半旬	0	0	0	0.4	0	0.1	0	0	0	0
平年数	10		10		10		10		10	

４．ハダニ類　　発生量　少

予察園におけるリンゴハダニ及びナミハダニは、長沼町（無防除）、余市町Ａ及びＢ（慣行防除）いずれの地点においても発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	1.4	0	0.2	0	0
2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0	1.0	0	16.4
3半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	0.3	0	1.0
4半旬	0	0	0	0	0	0	0	1.4	0	0.1	0	1.4
5半旬	0	0	0	0.2	0	0	0	1.2	0	1.4	0	0.4
6半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注） 30葉あたりの寄生数。

注） 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

５．キンモンホソガ　　発生量　並

予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町（無防除）で平年より多く、余市町Ａ（慣行防除）で平年より少なく、余市町Ｂ（慣行防除）では平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における被害葉率は平年よりやや高かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、七飯町で平年より多く、壮瞥町、旭川市及び増毛町で平年並だった。札幌市及び石狩市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	198.0	50.3	17.6	64.8	31.3	70.0	24	15.1
2半旬	91.0	53.1	15.4	77.2	31.0	66.8	31.8	15.6
3半旬	23.0	29.2	11.3	89.6	40.0	67.4	23	18.9
4半旬	6.4	8.4	7.5	49.3	16.3	37.2	30.8	22.9
5半旬	8.1	3.1	4.5	22.6	12.3	20.4	34.5	26.9
6半旬	4.5	0.6	0	10.5	6.4	3.8	49.3	38.9
平年数	10		10		10		10	

注） 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	2.8	0	30.5	11.6	26	166.0	12.9	5.6	0.4	200	352
2半旬	0	1.3	0	87.1	10	49	413.3	16.4	0	1.5	550	433
3半旬	0	1.1	0	23.5	16.7	45	1107	19.5	0	0.5	566.3	361
4半旬	0	0.3	0	30.5	42.5	36	663.0	19.8	0	0.2	281.3	273
5半旬	0	0.0	0	13.5	73.2	7	589.5	16.4	0	0.1	281.3	115
6半旬	0	0.1	0	11.5	109.3	3	383.3	12.4	0	0	281.3	60
平年数	10		10		10		10		10		10	

農薬の適切な保管管理と
空容器の適正な処分に努めましょう!!

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなってきますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

① 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管する。

② 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管する。
特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分する。

③ 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示が定められているので、これを遵守する。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを遵守する。

④ 農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わない。

⑤ 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わない。
農薬の空容器及び残農薬の処分にあたっては、関係法令に基づき適正に処分する。
なお、農薬の空容器の処分にあたっては、容器内に農薬が残らないよう除去する。

農薬に関してのお問い合わせは
道庁農政部生産振興局技術普及課(TEL:011-231-4111(内線)27-838)
北海道病害虫防除所(TEL:0123-89-2080)
または最寄りの(総合)振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については
農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/)
をご覧ください。